

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>		-		<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15		-		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を使用		<b>4.0</b>	0.20		-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.0</b>	0.35		-		<b>2.0</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ソーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20		-		
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30		-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.5</b>	0.25		-		<b>3.5</b>
3.1 昼光利用				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 昼光率				3.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		-		
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御でき、リモコンで調整できる。		<b>5.0</b>	0.25		-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25		-		<b>3.6</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50		-		
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。		<b>4.0</b>	1.00		-		
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30		-		
1 換気量				3.0	0.33		-		
2 自然換気性能		空気取り入れ口は汚染源のない方位に設けられていて、かつ各種排気口と6m以上離れて設置されている。		3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				<b>4.0</b>	0.33		-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50		-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>		-		<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.0</b>	0.40		-		<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.0</b>	0.40		-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				2.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 広さ感・景観		天井高は2.7mであり、かつ、全ての執務者が十分な屋外の情報を得られるように窓が設置されている。		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保し、自動販売機も設置している。		5.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		風除室を設け一次と扉と二次扉の間を1m以上開けている。外部露出の金属部分は垂鉛メッキ処理をしている。		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.5</b>	0.30		-		<b>3.5</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.4</b>	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能		制御装置の導入		5.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>4.0</b>	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数の長い外装材(サトイッチパネル)を採用している。		5.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット、壁:ビニルクロス貼り等、天井:化粧石膏ボード		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水(B)、排水(B)、冷媒(C)		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				<b>3.2</b>	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		

	3	電気設備	耐震クラス:Aクラス	3.0	0.20		-
	4	機械・配管支持方法		4.0	0.20		-

	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.7</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>5.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	
	1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.4</b>	<b>0.40</b>	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	EPS、ランク、各種配管等にて仕上材や構造部材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	各種配管等にて仕上材や構造部材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				<b>-</b>	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>4.0</b>	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>2.5</b>	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>-</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>-</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>-</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>-</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>-</b>
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				<b>-</b>	<b>0.50</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.4</b>	<b>0.20</b>	-	-	<b>3.4</b>
	1.1	節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>4.0</b>	<b>0.60</b>	-	-	<b>4.0</b>
	2.1	材料使用量の削減	機械式継手等を採用している。	4.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ロックウール吸音材(ボード類)、OAフロア(床材)、ビニル床シート(床材)	5.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のディールを採用し、OAフロアも採用している。	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.7</b>	<b>0.20</b>	-	-	<b>3.7</b>
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロンの断熱材を採用している。	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				<b>-</b>	<b>0.50</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				<b>-</b>	<b>-</b>	-	-	<b>-</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.5</b>	<b>0.50</b>	-	-	<b>3.5</b>
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器の設置は無い	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場及び荷捌き用駐車車両の駐車施設を確保している。	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.2</b>	<b>0.50</b>	-	-	<b>3.2</b>
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光源は総合効率の高いものを採用している。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	